ONKYO

インテグレーテッドアンプ

A-9050

取扱説明書

はじめに 2

接続をする 12

基本操作をする 21

応用設定をする 25

その他 26

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

主な特長

- 3 段インバーテッドダーリントン回路採用
- デジタル入力 (同軸 2 系統 / 光 1 系統)
- Wolfson（ウォルフソン）社製 DIDRC 内蔵 192 kHz（キロヘルツ）/24bit（ビット） D/A コンバーター (WM8718) 搭載
- フェーズマッチングバス機能搭載
- 1.6mm フルフラットシャーシ採用
- 75 W/ch(1kHz, 8 ohms, 0.08% THD, 2ch Driven（ドリブン） FTC)
- WRAT（Wide（ワイド） Range（レンジ） Amplifier（アンプリファイアー） Technology（テクノロジー）） 搭載
- 「DIDRC（Dynamic（ダイナミック） Intermodulation（インターモジュレイション） Distortion（ディストーション） Reduction（リダクション） Circuitry（サーキットリィ））」技術搭載
- High（ハイ） Current（カレント） Low（ロー） Impedance（インピーダンス） Drive（ドライブ） 採用
- 10,000μF キャパシター x 2 搭載
- オプティマム・ゲイン・ボリューム採用
- アルミニウム製フロントパネルおよびボリュームノブ採用
- ダイレクト機能搭載

目次

はじめに

主な特長 **2**
付属品 **3**
安全上のご注意 **4**
お使いになる前に **7**
乾電池を入れる 7
リモコンの使いかた 7
本機を設置する 7
本機について **8**
前面パネル 8
後面パネル 9
リモコン 10

接続をする

接続をする **12**
スピーカーを接続する 12
接続に必要なケーブルの名称と接続端子の形状 14
電源コードを接続する 14
CD プレーヤーを接続する 15
チューナーを接続する 16
オンキヨー製ドックを接続する 17
オンキヨー製品と連動させる接続 18
レコードプレーヤーを接続する 19
カセットテープデッキを接続する 19
録音機器を接続する 19
パワーアンプ内蔵サブウーファーを接続する 20
本機をプリアンプとして使用する 20

基本操作をする

基本操作 **21**
本機の電源を入れる・切る 21
スピーカー A とスピーカー B を選択する 22
音量を調節する 22
入力ソースを選択する 23
ダイレクト機能を使う 23
フェーズマッチングバス機能を使う 23
音質とバランスを調節する 24
一時的に音声の出力を止める 24
ヘッドホンで聴く 24

応用設定をする

応用設定 **25**
自動スタンバイを設定する 25
スピーカーのインピーダンスを設定する 25

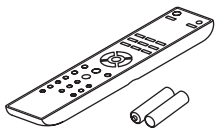
その他

困ったときは **26**
主な仕様 **28**
修理について **29**

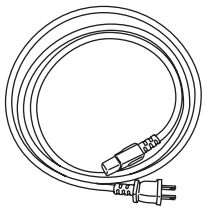
付属品

ご使用の前に、次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-830S）. . . . . (1)
乾電池（単 4 形、R03）. . . . . (2)



電源コード（2m）. . . . . (1)

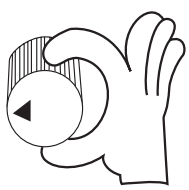


取扱説明書（本書）. . . . . (1)
保証書 . . . . . (1)
ユーザー登録カード. . . . . (1)

* カタログおよび包装箱などに表示されている、型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を充分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告	誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⃠ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない（本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあけ、本機の上部に棚板がある場合は通気性をよくするため、棚板の奥が背板から 10cm 以上開いていること）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかる所で使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重いものを乗せたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

⚠警告

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない。
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■長時間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に 10kg 以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気を付ける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

⚠注意

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げ過ぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

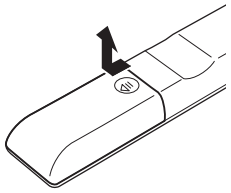
■本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

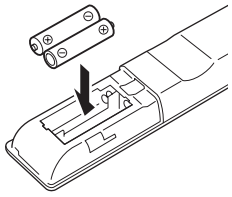
お使いになる前に

乾電池を入れる

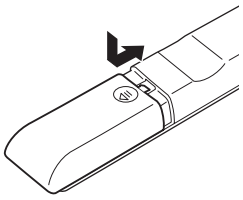
1 小さなくぼみを押しながら、スライドし電池カバーを開ける



2 図の極性に合わせて電池（単４形、R03）を入れる



3 電池カバーを元に戻す

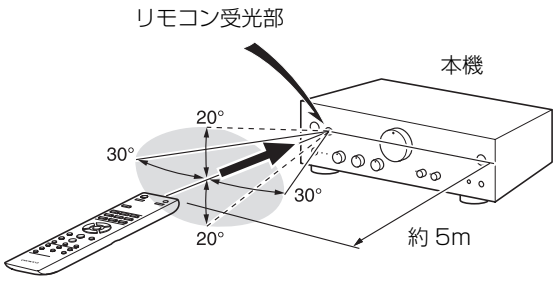


ご注意

- リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して、２本とも新しい電池と交換してください。
- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために、電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておくと、腐食によりリモコンを傷めることがあります。

リモコンの使いかた

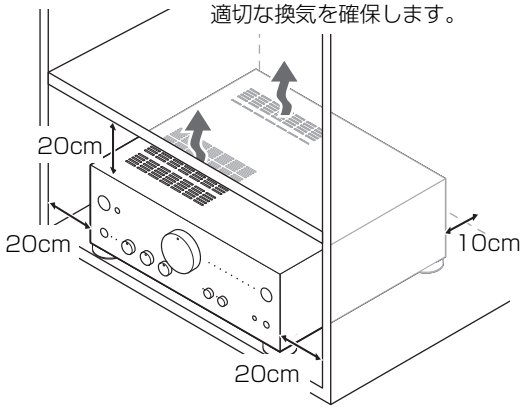
リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。



ご注意

- 本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に何も置かないでください。圧力がかかると電池が液漏れする場合があります。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置している場合、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物があると、リモコンが正常に機能しないことがあります。

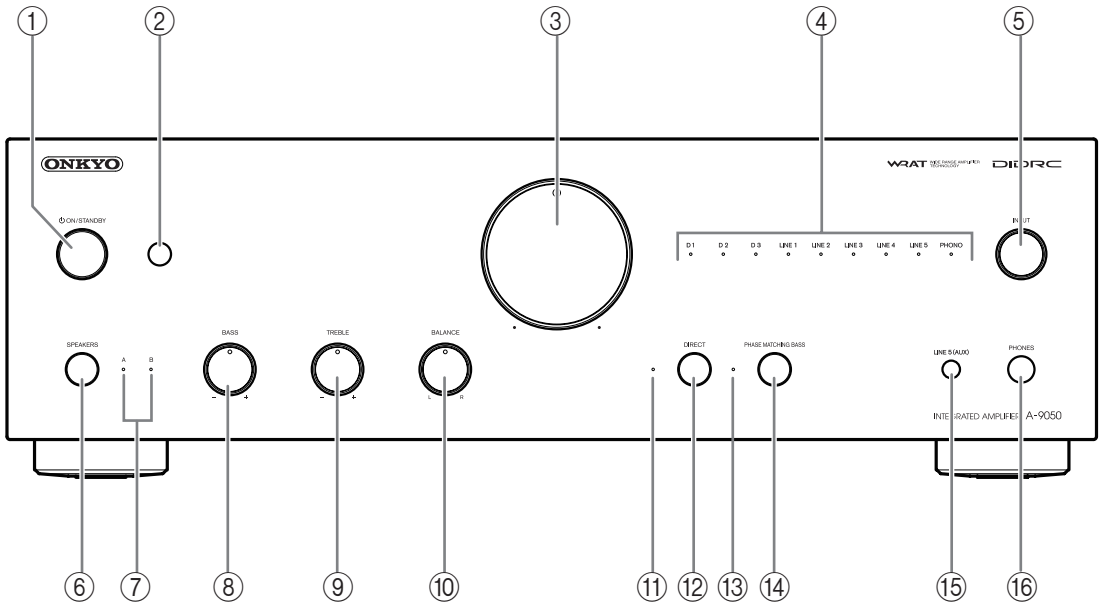
本機を設置する



頑丈な棚やラックに設置してください。本機の重量が均等に４つの足に分散されるように配置してください。強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。本機は、高い変換効率を持つように設計されていますが、その温度は他のオーディオ機器よりも高くなります。適切な換気を確保して、放熱を妨げないようにしてください。

本機について

前面パネル



詳細については、（ ）内のページをご覧ください。

① ⏻**ON/STANDBY ボタン**（→ P.21）
電源のオン / スタンバイを切り換えます。

② **リモコン受光部**（→ P.7）
リモコンからの信号を受信します。

③ **ボリュームつまみ**（→ P.22）
音量を調節します。

④ **入力ソース LED**（→ P.23）
選択している入力ソースに対応した LED が点灯します。

⑤ **INPUT ダイヤル**（→ P.23）
このダイヤルを回すと、入力ソースを LED に表示します。

⑥ **SPEAKERS ボタン**（→ P.22）
出力するスピーカーをスピーカー A、スピーカー B のいずれか、または両方から選択します。

⑦ **A/B LED**（→ P.22）
選択しているスピーカー出力に合わせて A/B LED が点灯します。

⑧ **BASS -/+ つまみ**（→ P.24）
低音の音量を調節します。

⑨ **TREBLE -/+ つまみ**（→ P.24）
高音の音量を調節します。

⑩ **BALANCE L/ つまみ**（→ P.24）
左右の音声バランスを調節します。

⑪ **DIRECT LED**（→ P.23）
ダイレクト機能が ON になっているときに点灯します。

⑫ **DIRECT ボタン**（→ P.23）
ダイレクト機能の ON と OFF を切り換えます。

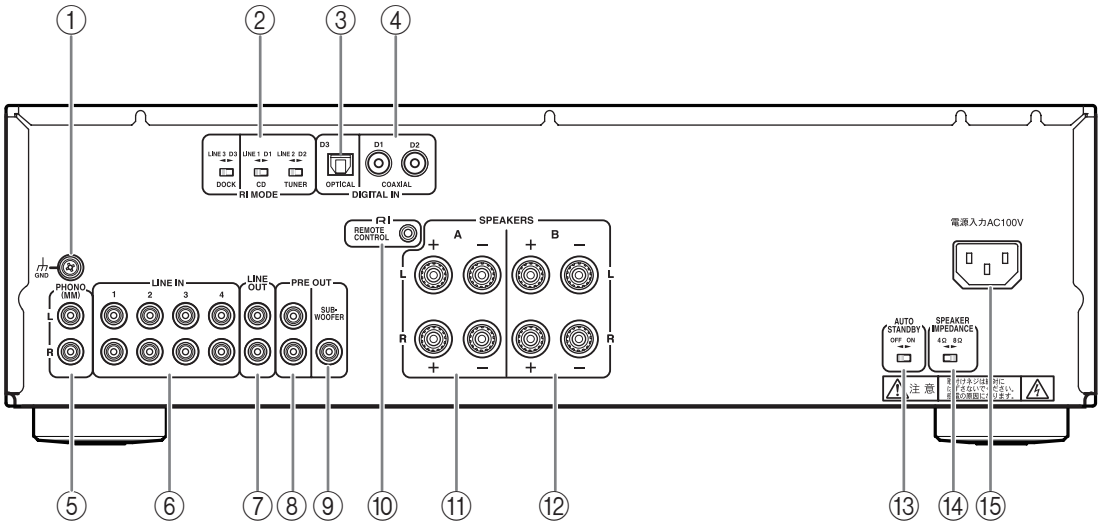
⑬ **PHASE MATCHING BASS LED**（→ P.23）
フェーズマッチングバス機能が ON になっているときに点灯します。

⑭ **PHASE MATCHING BASS ボタン**（→ P.23）
フェーズマッチングバス機能の ON と OFF を切り換えます。

⑮ **LINE 5（AUX）端子**
再生機器を接続するためのアナログ音声入力端子です。

⑯ **PHONES 端子**（→ P.24）
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

後面パネル



① **GND**
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

② **RI MODE 切換スイッチ**

③ **DIGITAL IN OPTICAL D3 端子**
CD プレーヤーなど、OPTICAL（光）デジタル音声出力機器を接続するデジタル音声入力端子です。

④ **DIGITAL IN COAXIAL D1/D2 端子**
CD プレーヤーなど、COAXIAL（同軸）デジタル音声出力機器と接続するデジタル音声入力端子です。

⑤ **PHONO（MM）L/R 端子**
レコードプレーヤーを接続するためのアナログ音声入力端子です。

⑥ **LINE IN 1/2/3/4 L/R 端子**
再生機器を接続するためのアナログ音声入力端子です。

⑦ **LINE OUT L/R 端子**
アナログラインレベル機器などに接続します。
PHONO/**DIGITAL IN**/**LINE IN** に入力された信号がラインレベルで出力されます。

⑧ **PRE OUT L/R 端子**
本機をプリアンプとして使用するときに、パワーアンプを接続します。

⑨ **PRE OUT SUBWOOFER 端子**

⑩ **RI REMOTE CONTROL 端子**
RI 端子付きオンキヨー製 CD プレーヤー、チューナー、**RI** ドックと接続し、連動させる端子です。

⑪ **SPEAKERS A 端子**
スピーカー A を接続します。

⑫ **SPEAKERS B 端子**
スピーカー B を接続します。

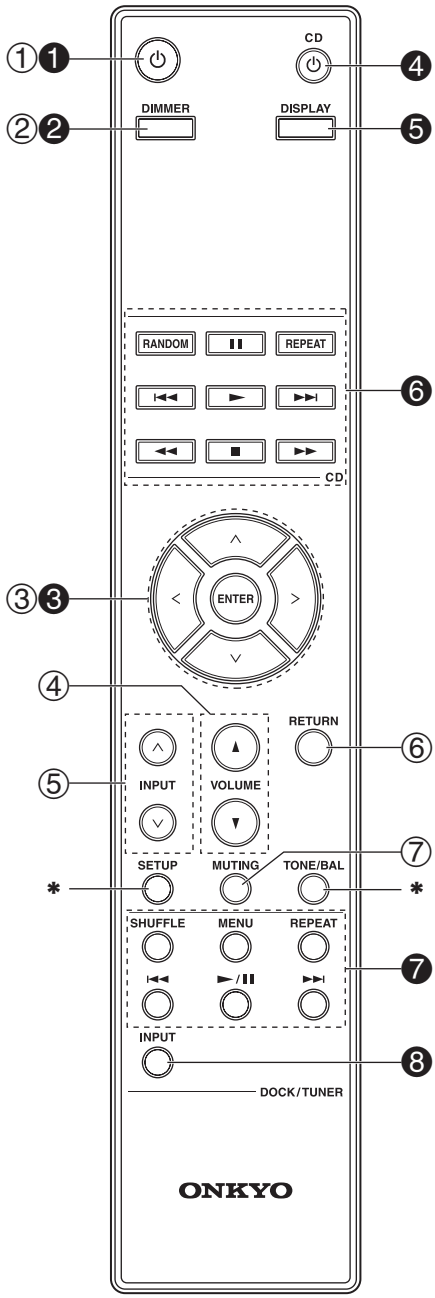
⑬ **AUTO STANDBY 切換スイッチ**
オートスタンバイ機能の ON と OFF を切り換えます。

⑭ **SPEAKER IMPEDANCE 切換スイッチ**
スピーカーインピーダンスの 4Ω と 8Ω を切り換えます。

⑮ **電源入力 AC100V 端子**
付属の電源コードを接続します。

接続については「接続をする」をご覧ください（→ P.12）。

リモコン



＊本機では使用しません

詳細については、（ ）内のページをご覧ください。

① ⏻ **ボタン（→ P.21）**
電源のオン / スタンバイを切り換えます。

② **DIMMER（ディマー）ボタン**
表示部の明るさを切り換えます。

③ **∧/∨/</>/ENTER（エンター）ボタン**
設定項目を選択します。**ENTER** ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

④ **VOLUME（ボリューム）▲/▼ ボタン（→ P.22）**
音量を調節します。

⑤ **INPUT（インプット）∧/∨ ボタン（→ P.23）**
入力ソースを選択します。

⑥ **RETURN（リターン）ボタン**
設定中に 1 つ前の表示に戻します。

⑦ **MUTING（ミューティング）ボタン（→ P.24）**
音を一時的に小さくします。

リモコンでお手持ちのオンキヨー製 CD プレーヤー、オンキヨー製チューナー、オンキヨー製 **RI** ドックを操作することができます。

ご注意

- 製品によっては対応していないものや一部操作ができないものもあります。
- 各オンキヨー製品を操作するには、**RI** 接続が必要です（→ P.18）。
- 各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

■オンキヨー製 CD プレーヤーを操作する

❹ ⏻ **CD ボタン**
❻ **再生モードボタン**

ご注意

- リモコンを CD プレーヤーに向けて操作してください。

■オンキヨー製ドックを操作する

❶ ⏻ **ボタン**
❷ **DIMMER（ディマー）ボタン**
❸ **∧/∨/ENTER（エンター）ボタン**
❼ **ドック操作ボタン**

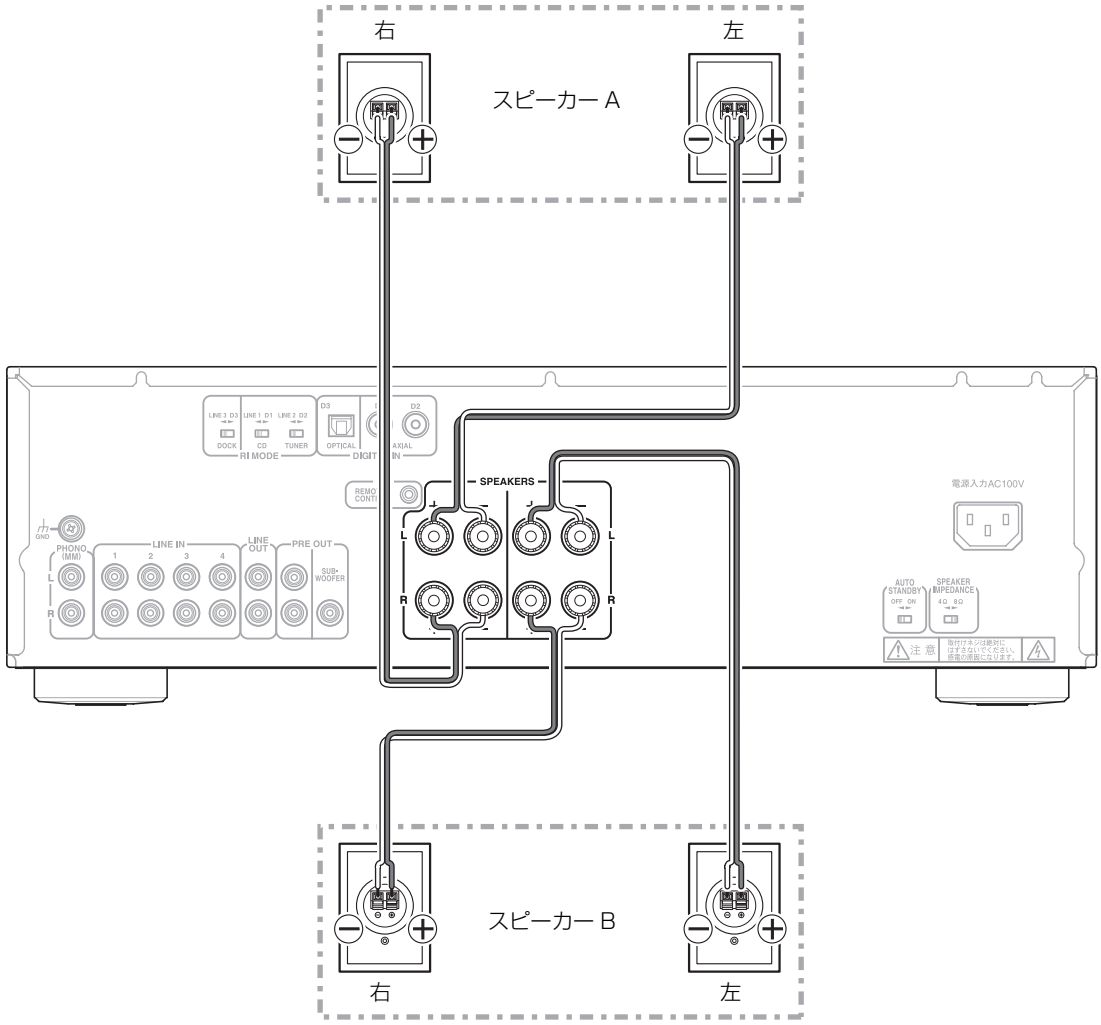
■オンキヨー製チューナーを操作する

❶ ⏻ **ボタン**
❷ **DIMMER（ディマー）ボタン**
❸ **∧/∨/</>/ENTER（エンター）ボタン**
❺ **DISPLAY（ディスプレイ）ボタン**
❼ **ネットワークチューナー操作ボタン**
❽ **INPUT（インプット）SELECTOR（セレクター）、BAND（バンド）操作ボタン**

	接続端子	LINE1/D1	LINE2/D2	LINE3/D3
	接続機器 / 操作ボタン	CD プレーヤー	チューナー	RI ドック
1	⏻		⏻	⏻
2	DIMMER	DIMMER	DIMMER	
3	∧/∨		∧/∨ (Tuning up/Down)	∧/∨
	</>		</> (Preset Up/Down)	
	ENTER		ENTER	ENTER
4	⏻CD	⏻		
5	DISPLAY		表示部の情報を 切り換えます。	
6	RANDOM	RANDOM		
	REPEAT	REPEAT		
	⏮	⏮		
	◄◄	◄◄		
	►	►		
	❚❚	❚❚		
	►►	►►		
	⏭	⏭		
	■	■		
7	SHUFFLE		SHUFFLE	SHUFFLE
	MENU		MENU	MENU
	REPEAT		REPEAT	REPEAT
	⏮		⏮	⏮
	►/❚❚		►/❚❚	►/❚❚
	⏭		⏭	⏭
8	INPUT		INPUT SELECTOR/ BAND	

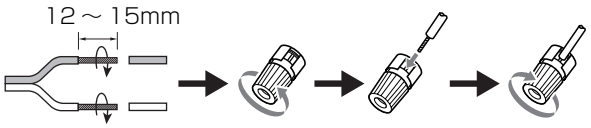
接続をする

スピーカーを接続する



■ネジ式スピーカー端子

スピーカーコードの被覆を先端から 12 ～ 15mm 剥ぎ、芯線をしっかりよじります。

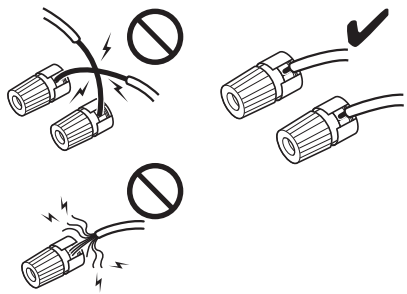


■バナナプラグ

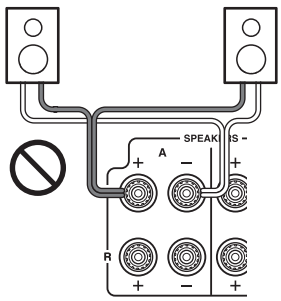
- スピーカー端子をしっかり締めてから、バナナプラグを挿入してください。
- スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子のバナナプラグ用の穴に直接挿入しないでください。

ご注意

- Y プラグは接続できません。
- 本機には 2 セットのスピーカー（スピーカー A とスピーカー B）を接続できます。音楽を鑑賞するときに、どちらのスピーカーから音を出すか選択できます。また、両方のスピーカーから音を出すこともできます。
- スピーカー A または B 端子の一方だけに接続する場合は、インピーダンスが 4 ～ 16 Ω（オーム） のスピーカーを使用してください。
- スピーカー A と B 端子の両方に接続する場合は、インピーダンスが 8 ～ 16Ω のスピーカーを使用してください。8Ω 未満のスピーカーを接続すると、保護回路が働く場合があります。
- 1 台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合に、1 台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。
- 必ず、プラス（+）端子はプラス（+）端子と、マイナス（−）端子はマイナス（−）端子と接続するようにしてください。間違って接続すると、逆位相になり再生音が不自然になります。
- プラスのコードとマイナスのコードをショートさせないでください。故障の原因になります。
- コードの芯線を本機の後面パネルと接触させないでください。故障の原因になります。



- 1 つのスピーカー端子に複数のスピーカーコードを接続しないでください。故障の原因になります。



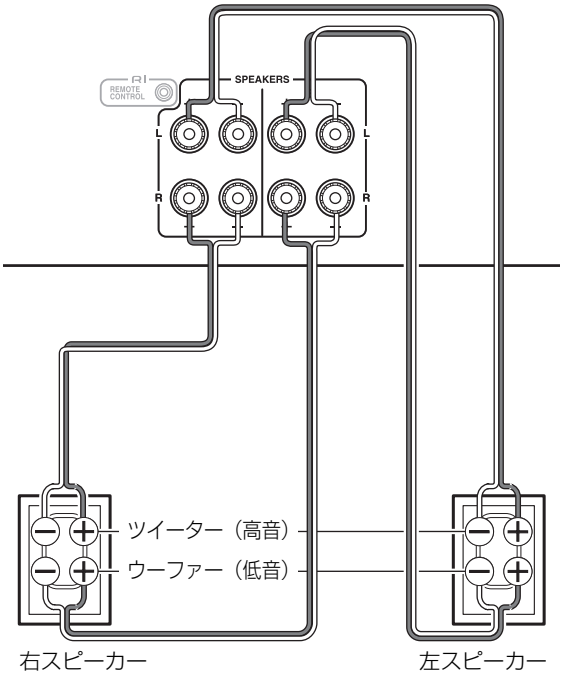
バイワイヤリングで接続する

バイワイヤリング接続に対応したスピーカーを接続し、低音域と高音域の音質を向上させることができます。

SPEAKERS A 端子および **SPEAKERS B**（スピーカーズ） 端子を使用して、低域信号と高域信号を分けて配線します。

重要

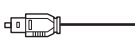
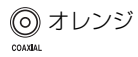
- バイワイヤリング接続に対応するスピーカーでインピーダンスが 4 ～ 16Ω のもののみ使用可能です。詳しくはスピーカーの取扱説明書をご覧ください。
- バイワイヤリング接続を行うときは、スピーカーのツイーター（高音）端子とウーファー（低音）端子をつなぐショート金具を必ず取り外してください。
- バイワイヤリング接続をするときは、**SPEAKERS A** 端子および **SPEAKERS B** 端子を使用する設定にしてください（→ P.22）。



ヒント

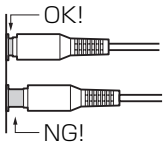
- イラストでは、**SPEAKERS A** 端子をツイーターに **SPEAKERS B** 端子をウーファーに接続していますが、逆に接続することも可能です。

接続に必要なケーブルの名称と接続端子の形状

光デジタルケーブル (OPTICAL)			PCM デジタル音声を楽しむことができます。 PCM 入力信号で利用できるサンプリング周波数は、最大 96 kHz /24bit、2 チャンネルです。
同軸デジタルケーブル * (COAXIAL)			PCM デジタル音声を楽しむことができます。 PCM 入力信号で利用できるサンプリング周波数は、最大 96kHz/24bit、2 チャンネルです。 75 Ω でインピーダンスマッチングされます。
オーディオ用 ピンケーブル			アナログ音声信号を伝送します。
RI ケーブル			**RI**（リモートインタラクティブ）機能を使う場合は、本機とオンキヨー製 CD プレーヤー、チューナーや **RI** ドックを **RI** ケーブルで接続する必要があります。

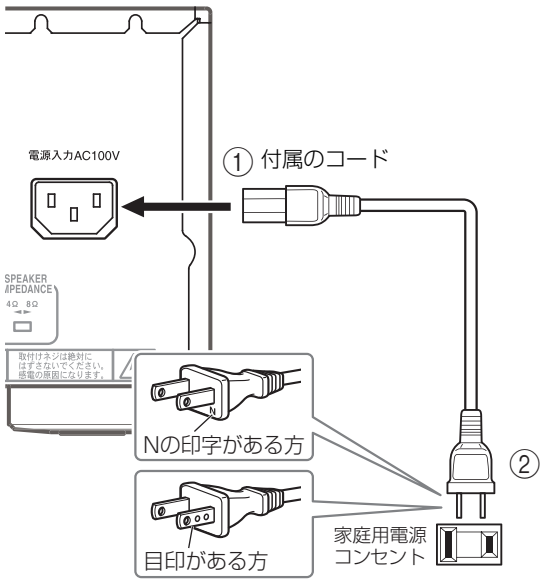
ご注意

- プラグは奥までしっかり押し込んでください（ノイズや誤動作の原因になります）。
- ケーブル同士の接触を防ぐため、音声ケーブルや電源・スピーカーケーブルが接近しないようにしてください。
- 本機の光デジタル端子は、扉タイプですので、扉をそのまま奥へ倒すようにして、光デジタルケーブルを差し込んでください。
- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、扉が破損する場合があります。
- PCM 以外のデジタル音声信号を入力しないでください。



* 同軸デジタルケーブルの代わりにオーディオ用ピンケーブルを使用することは可能ですが、同軸デジタルケーブルまたはビデオケーブルを使用していただくことを推奨します。

電源コードを接続する



1 **すべての接続が完了していることを確認する**

2 **付属の電源コードを、本機の電源入力 AC100V 端子に接続する**

3 **電源コードを家庭用電源コンセントに接続する**

より良い音で聴いていただくために

電源コードには下記の 2 つのタイプがあります。
電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

ヒント

- ノイズを抑えるため、信号ケーブルと電源ケーブルは一緒に束ねず、お互いに離して配線してください。

ご注意

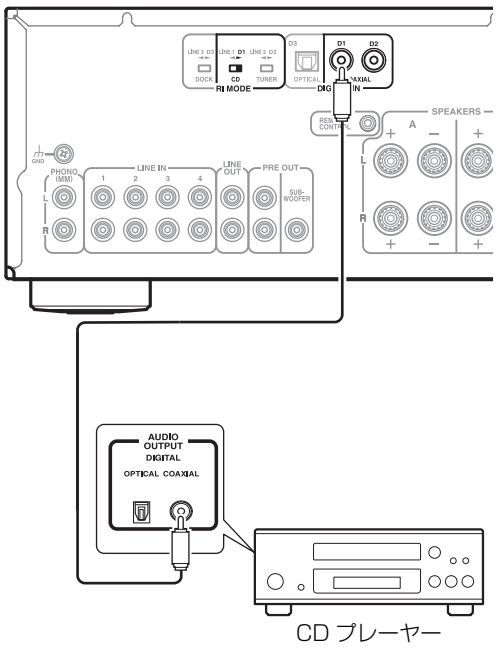
- **家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で、電源入力 AC100V 端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。**電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機の電源をスタンバイにしてから抜いてください。

CD プレーヤーを接続する

オンキヨー製 CD プレーヤーとの接続例です。

デジタルで接続する

本機



CD プレーヤー

1 **同軸デジタルケーブルを COAXIAL (コアキシャル) D1 端子に接続する**

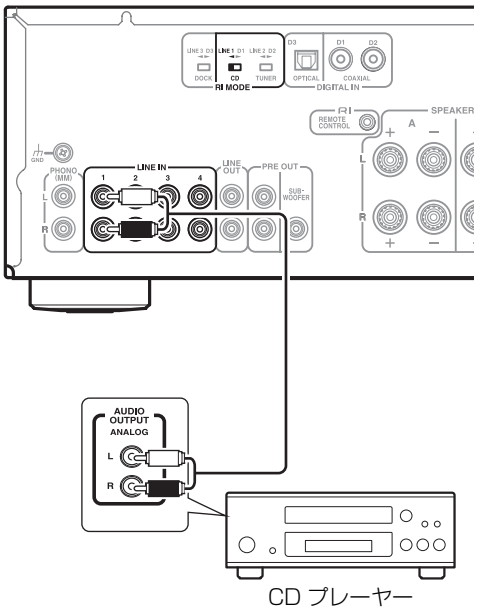
2 **RI MODE 切換スイッチを CD D1 に設定する**

ヒント

- **COAXIAL D1/D2** 端子、**OPTICAL D3** 端子のいずれに接続してもお使いいただけますが、**RI** 連動機能をお使いいただく場合は **COAXIAL D1** 端子に接続してお使いください。

アナログで接続する

本機



CD プレーヤー

1 **オーディオ用ピンケーブルを LINE IN 1 端子に接続する**

2 **RI MODE 切換スイッチを CD LINE1 に設定する**

ヒント

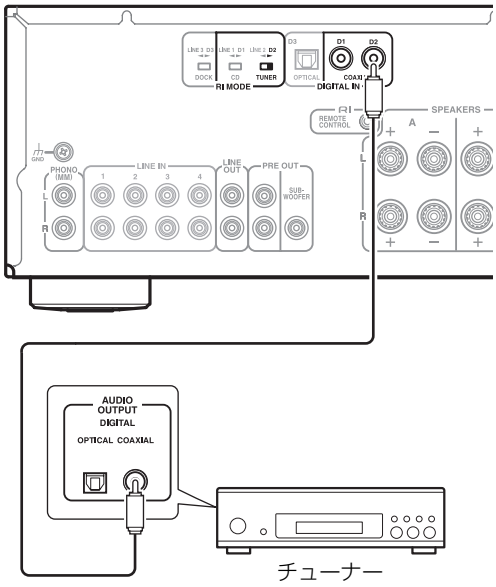
- **LINE IN 1/2/3/4** 端子のいずれに接続してもお使いいただけますが、**RI** 連動機能をお使いいただく場合は **LINE IN 1** 端子に接続してお使いください。

チューナーを接続する

オンキヨー製チューナーとの接続例です。

デジタルで接続する

本機



チューナー

1 **同軸デジタルケーブルを COAXIAL D2 端子に接続する**

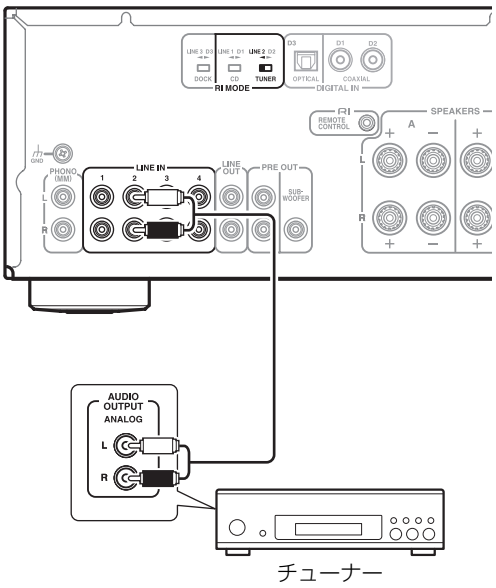
2 **RI MODE 切換スイッチを TUNER D2 に設定する**

ヒント

- **COAXIAL D1/D2** 端子、**OPTICAL D3** 端子のいずれに接続してもお使いいただけますが、**RI** 連動機能をお使いいただく場合は **COAXIAL D2** 端子に接続してお使いください。

アナログで接続する

本機



チューナー

1 **オーディオ用ピンケーブルを LINE IN 2 端子に接続する**

2 **RI MODE 切換スイッチを TUNER LINE2 に設定する**

ヒント

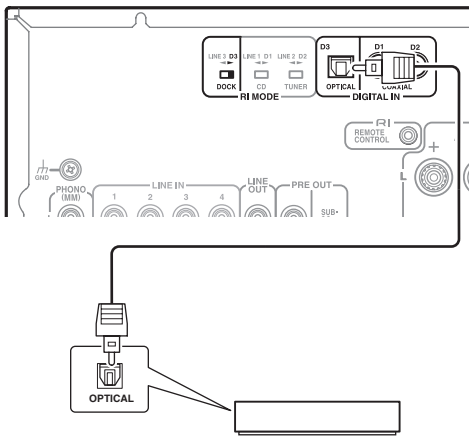
- **LINE IN 1/2/3/4** 端子のいずれに接続してもお使いいただけますが、**RI** 連動機能をお使いいただく場合は **LINE IN 2** 端子に接続してお使いください。

オンキヨー製ドックを接続する

オンキヨー製 RI ドックとの接続例です。

デジタルで接続する

本機



デジタルメディアトランスポート、RI ドック

1 **光デジタルケーブルを OPTICAL D3 端子に接続する**

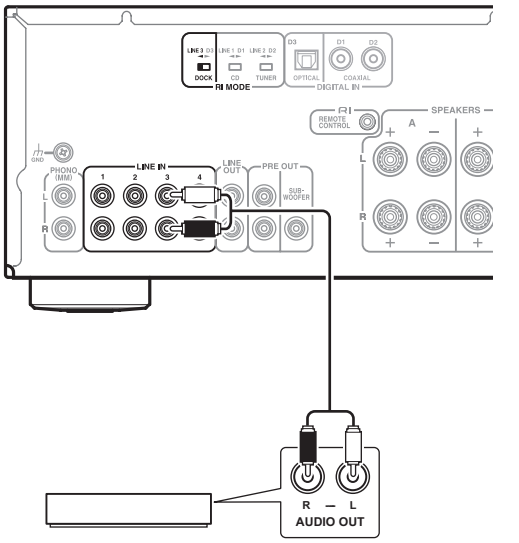
2 **RI MODE 切換スイッチを DOCK D3 に設定する**

ヒント

- **COAXIAL D1/D2** 端子、**OPTICAL D3** 端子のいずれに接続してもお使いいただけますが、**RI** 連動機能をお使いいただく場合は **OPTICAL D3** 端子に接続してお使いください。

アナログで接続する

本機



デジタルメディアトランスポート、RI ドック

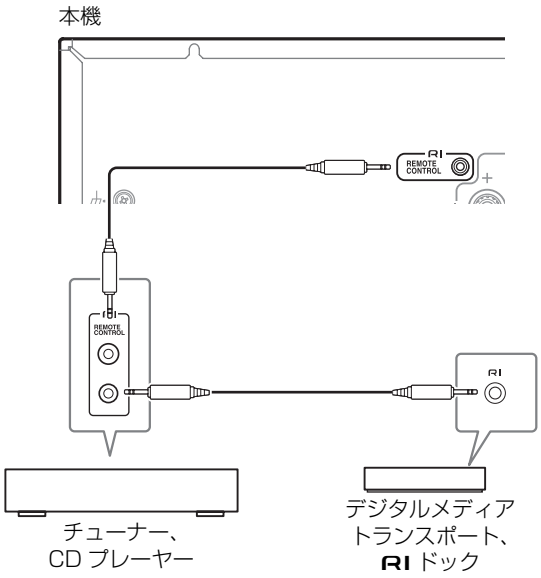
1 **オーディオ用ピンケーブルを LINE IN 3 端子に接続する**

2 **RI MODE 切換スイッチを DOCK LINE3 に設定する**

ヒント

- **LINE IN 1/2/3/4** 端子のいずれに接続してもお使いいただけますが、**RI** 連動機能をお使いいただく場合は **LINE IN 3** 端子に接続してお使いください。

オンキヨー製品と連動させる接続



1 各オンキヨー製 CD プレーヤー、チューナー、RI ドックが、接続されていることおよび RI MODE の切換スイッチが正しく設定されていることを確認する（→ P.15 ～ 17）

ご注意

- 切換スイッチは、スタンバイ中に変更しても、設定が有効になりません。
  設定を変更する場合は、一度本機の電源を ON にしてください。

2 RI ケーブルを接続する

RI（リモートインタラクティブ）機能で、以下のシステム機能を利用できます。

■オートパワーオン

本機がスタンバイモードになっている状態で、RI 接続されている機器の再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、該当する機器が入力ソースに選ばれます。

■ダイレクトチェンジ

RI 接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

■システムオフ

本機の電源を切ると、RI 接続されている機器の電源が自動的にオフになります。

■リモコン操作

本機のリモコンを使って、RI に対応しているオンキヨー製品を操作できます。リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作します。
CD プレーヤーを操作する場合は、CD プレーヤーに向けて操作してください。

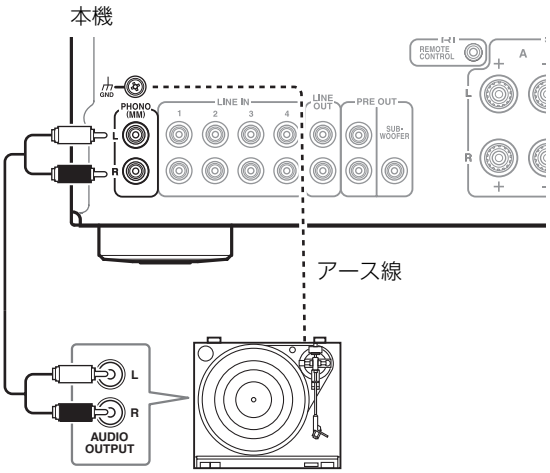
ヒント

- 接続機器の操作に関しては「リモコン」をご覧ください（→ P.10）。

ご注意

- RI ケーブルの接続は、順序の指定はありません。
- RI 端子が 2 つある場合、2 つの端子の働きは同じです。どちらにもつなぐことができます。
- 本機の RI 機能は、オンキヨー製 CD プレーヤー、チューナー、RI ドックにのみ対応しています。MD レコーダーなど他の機器では、適切に働きません。
- 製品によっては、RI 接続をしても、一部の機能が働かないことがあります。
- CD プレーヤーは、オートパワーオンとダイレクトチェンジのみに対応しています。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 新旧製品の連動動作の対応 / 非対応については、オンキヨーオーディオコールセンターにお問い合わせください。

レコードプレーヤーを接続する



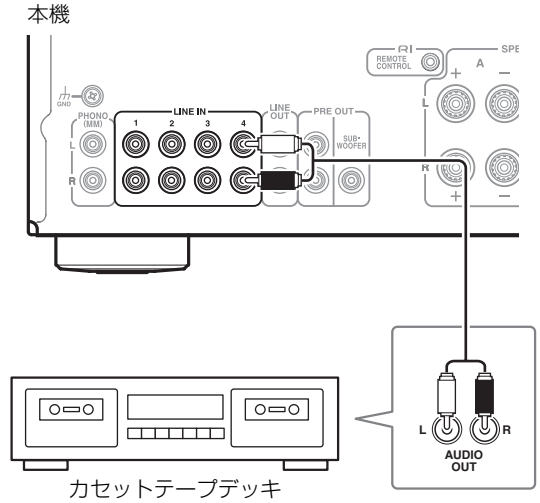
本機はムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

レコードプレーヤーの接続コードを本機の **PHONO（フォノ） L/R** 端子に接続します。

ヒント

- アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の **GND（グランド）** 端子に接続してください。
  ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。
  その場合は、アース線を接続する必要はありません。
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。
  次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機の **PHONO L/R** 端子を接続します。

カセットテープデッキを接続する



ヒント

- **LINE IN 1/2/3/4** 端子のいずれに接続してもお使いいただけます。

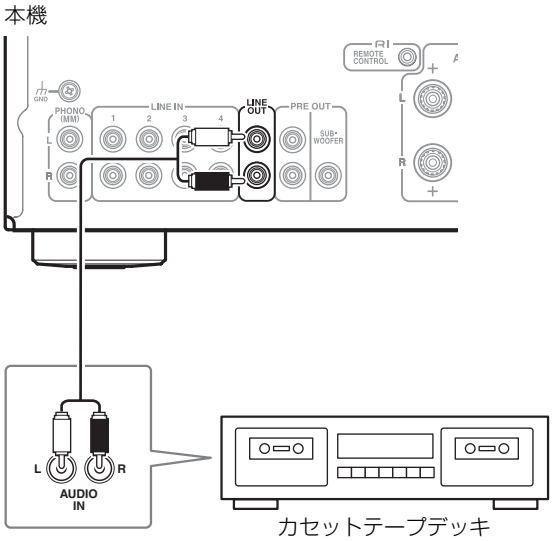
録音機器を接続する

重要

- あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 録音中は本機の入力を切り換えないでください。途中で入力を切り換えると、新しく選択された機器からの音声が録音されてしまいます。

ご注意

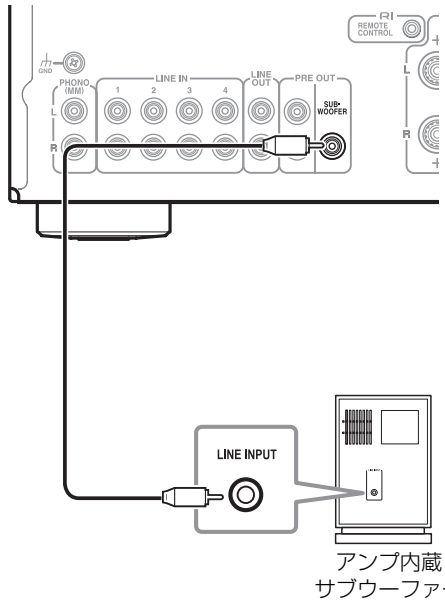
- 音量調節および **MUTING（ミューティング）** ボタンでの操作は、**LINE OUT（ライン アウト）** 端子から出力される音声信号には反映されません。
- **BASS（バス） -/+** つまみ、**TREBLE（トレブル） -/+** つまみ、**BALANCE（バランス） L/R** つまみで設定した内容およびダイレクト機能、フェーズマッチングバス機能は、**LINE OUT** 端子から出力される音声信号には反映されません。
- 詳しい操作方法は、録音機器の取扱説明書をご覧ください。



パワーアンプ内蔵サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵サブウーファーを接続して使用できます。
本機の PRE OUT: SUBWOOFER 端子とパワーアンプ内蔵サブウーファーの LINE INPUT 端子を接続します。
ご使用のサブウーファーにアンプが内蔵されていない場合は、お手持ちのアンプ機器の入力端子にサブウーファーのプリアウト端子を接続して、ご使用ください。
詳しくは、サブウーファーに付属の取扱説明書をご覧ください。

本機

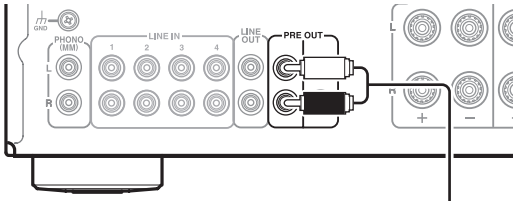


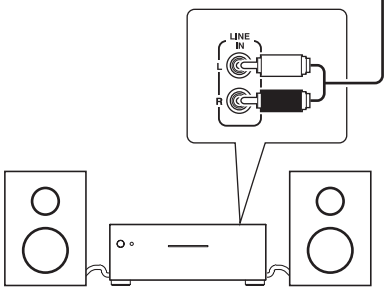
アンプ内蔵
サブウーファー

本機をプリアンプとして使用する

本機をプリアンプとして使用し、お好みのパワーアンプと接続することができます。
別売りのオンキヨー製パワーアンプとの接続例です。

本機

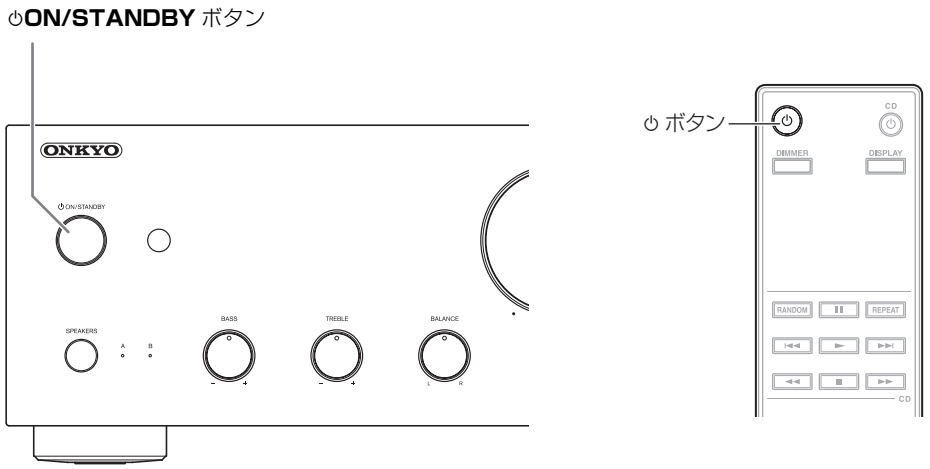




パワーアンプ

基本操作

本機の電源を入れる・切る



本機の電源を入れる

■リモコンで操作する

1 **⏻ ボタンを押す**
SPEAKERS（A/B）および入力ソースの LED が点滅し、しばらくすると点灯に変わります。

■本体で操作する

1 **⏻ON/STANDBY ボタンを押す**
SPEAKERS（A/B）および入力ソースの LED が点滅し、しばらくすると点灯に変わります。

ヒント

- 一定時間ウォーミングアップすると、本機の部品や内部温度が安定し、音が柔らかくなります。
- 本機は電源をオフにした際の状態を記憶し、電源をオンにすると前回電源オフ時の状態に戻ります。

本機の電源を切る

■リモコンで操作する

1 **⏻ ボタンを押す**
本機がスタンバイ状態になり、LED が消灯します。

■本体で操作する

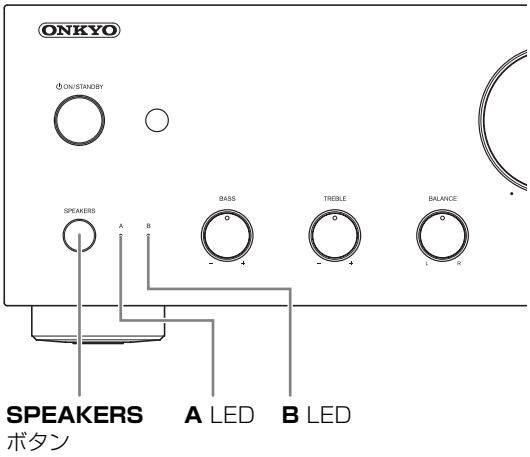
1 **⏻ON/STANDBY ボタンを押す**
本機がスタンバイ状態になり、LED が消灯します。

ヒント

- 電源の設定については、「自動スタンバイを設定する」をご覧ください（➔ P.25）。

スピーカーA とスピーカーB を選択する

出力するスピーカーをスピーカー A、スピーカー B のいずれか、または両方から選択します。



SPEAKERS ボタン　**A** LED　**B** LED

1 SPEAKERS（スピーカーズ）ボタンをくり返し押す

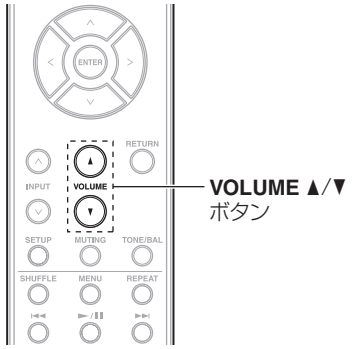
選択したスピーカーの LED が点灯します。

ご注意

- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。
- スピーカー A、スピーカー B の両方を選択する場合、スピーカーのインピーダンスが制限されます。詳しくは「スピーカーを接続する」をご覧ください（➔ P.12）。

音量を調節する

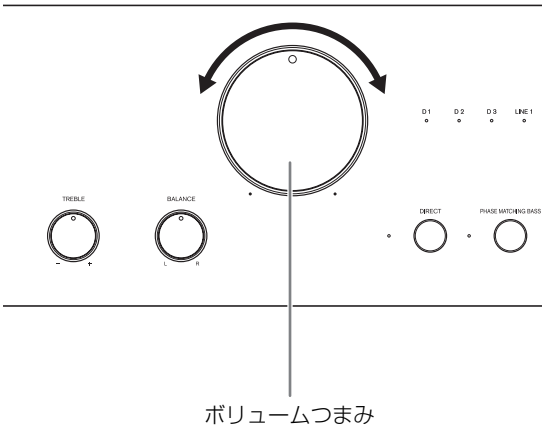
■リモコンで操作する



VOLUME ▲/▼ ボタン

1 VOLUME（ボリューム）▲/▼ ボタンをくり返し押す

■本体で操作する



ボリュームつまみ

1 ボリュームつまみを回す

ヒント

- お買い上げ時は「**0**」に設定されています。

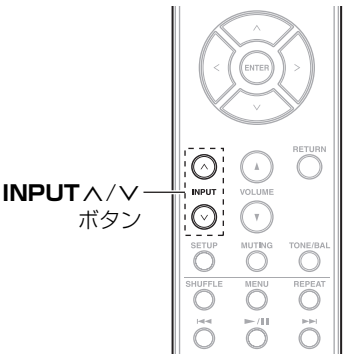
入力ソースを選択する

入力を切り換えて、再生する機器を選択します。
以下の入力から選択できます。
「LINE1（ライン）」、「LINE2」、「LINE3」、「LINE4」、「LINE5」、「PHONO（フォノ）」、「D1」、「D2」、「D3」
選択した入力に対応した LED が点灯します。

ヒント

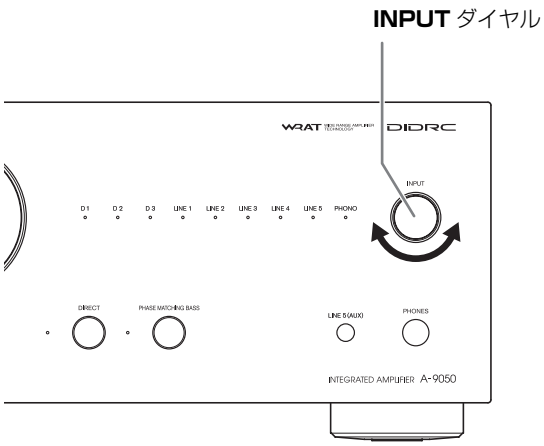
- 「D1」、「D2」、「D3」のいずれかが選択されており、信号入力がない場合は、LED が点滅します。

■リモコンで操作する



1 **INPUT（インプット） ∧/∨ ボタンをくり返し押す**

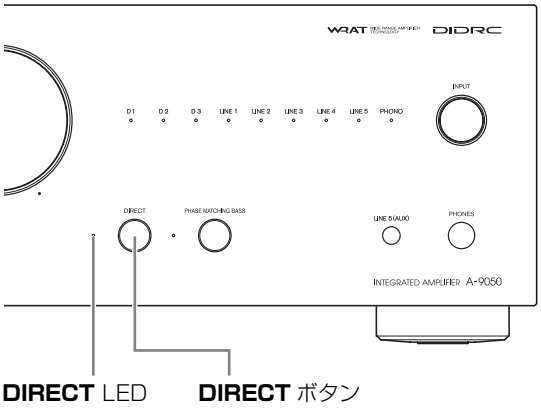
■本体で操作する



1 **INPUT ダイヤルを回す**

ダイレクト機能を使う

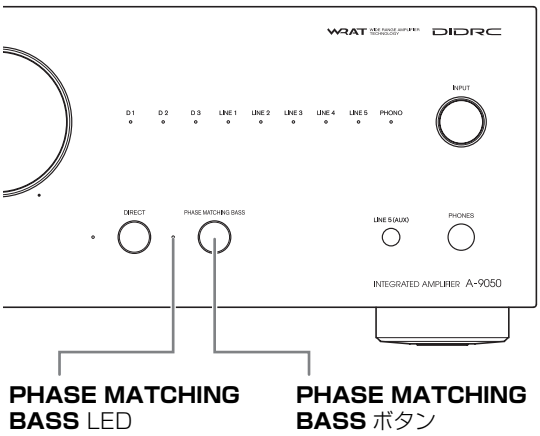
ダイレクト機能をオンにすると音質（低音、高音）経路をバイパスし、音質に有利な最短経路となります。また、左右の出力バランスは音質に影響のない方式を採用しているため、調節することができます。



1 **DIRECT（ダイレクト） ボタンを押す**
DIRECT LED が点灯します。

フェーズマッチングバス機能を使う

優れたコンパクト・オーディオ・システムは、チェロの奏でる低くぬくもりのある音色から、電子音楽の低周波音まで、さまざまな低音域の響きを再現できなければなりません。従来のサウンド強化システムは、確かに低音域を効果的に強調しますが、時に位相シフトに影響し、中音域を圧倒して音を濁らせてしまいがちです。
弊社のフェーズマッチング・ベース・ブースト・テクノロジー（位相整合低音強調技術）は、どんな音量レベルにおいても力強く滑らかな低音域再生を持続しながら、クリアーな中音域を効果的に保持し、ボーカルやストリングスを際立たせます。



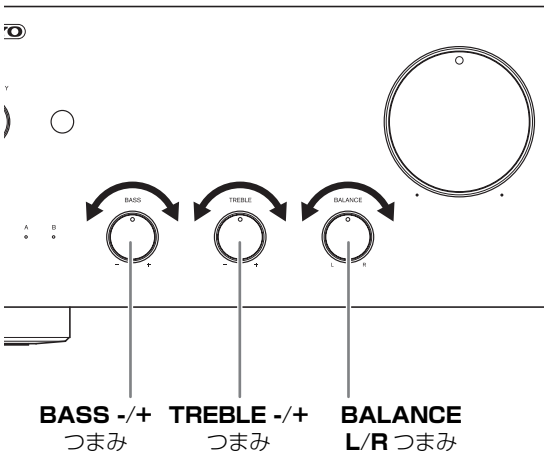
1 **PHASE（フェーズ） MATCHING（マッチング） BASS（バス） ボタンを押す。**
PHASE MATCHING BASS LED が点灯します。

- PURE DIRECT（または DIRECT）機能が ON になっている場合 OFF にして、フェーズマッチングバス機能の効果をお楽しみください。

音質とバランスを調節する

低音、高音、左右の出力バランスを調節します。

■ 本体で操作する



BASS -/+ つまみ　**TREBLE -/+** つまみ　**BALANCE L/R** つまみ

1 BASS（バス） -/+ つまみ、TREBLE（トレブル） -/+ つまみ、BALANCE（バランス） L/R つまみを回す

ヒント

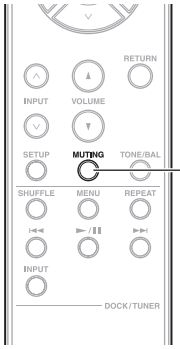
- お買い上げ時は「BASS」、「TREBLE」、「BALANCE」がセンターに設定されています。

ご注意

- ダイレクト機能がオンの場合、「BASS」、「TREBLE」の音質調整はできません。

一時的に音声の出力を止める

音声の出力を一時的に止めます。



MUTING ボタン

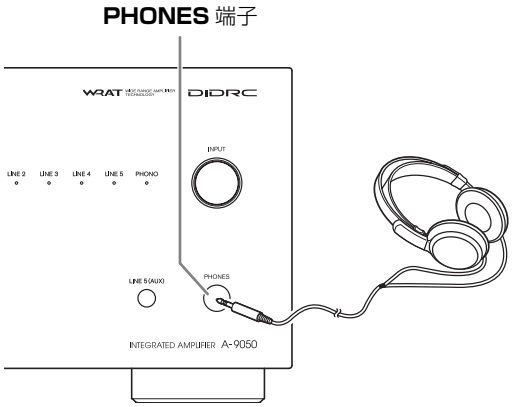
1 MUTING（ミューティング） ボタンを押す

SPEAKERS（スピーカーズ）（A/B）およびセレクターの LED が点滅します。
解除するには、**MUTING** ボタンをもう一度押します。

ご注意

- 一時的に音量を小さくした場合：
  - 音量を調節または本機をスタンバイ状態にすると、この機能は解除されます。

ヘッドホンで聴く



1 標準プラグ（6.3mm）のステレオヘッドホンを PHONES（フォーンズ） 端子に接続する

ヘッドホンを接続すると SPEAKERS（A/B）LED は消灯します。
VOLUME（ボリューム） ▲/▼ ボタンで音量の調節ができます。
ヘッドホンを接続すると本機に接続したスピーカーおよび **PRE**（プリ） **OUT**（アウト） 端子から音声は出力されません。

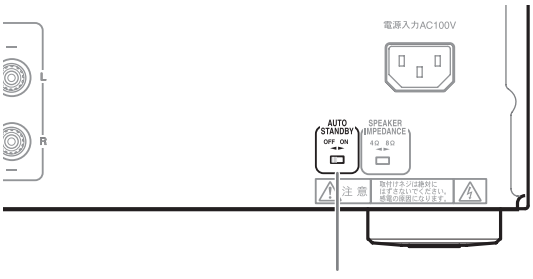
ご注意

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホンを接続しているとき、**SPEAKERS**（スピーカーズ） ボタンは使用できません。

応用設定

自動スタンバイを設定する

自動スタンバイをオンに設定したとき、音声入力がない状態で本機を 30 分間操作しないでいると、自動的にスタンバイ状態になります。



AUTO STANDBY 切換スイッチ

1 本体リヤパネルの AUTO（オート） STANDBY（スタンバイ） 切換スイッチを切り換える

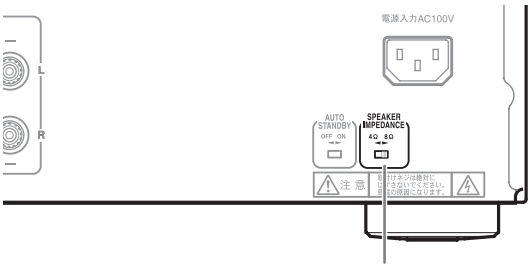
- ▸「ON」
  自動スタンバイを有効にします。
- ▸「OFF」
  自動スタンバイを無効にします。

ヒント

- お買い上げ時は、「**OFF**」に設定されています。

スピーカーのインピーダンスを設定する

接続するスピーカーのインピーダンスを設定することができます。



SPEAKER IMPEDANCE 切換スイッチ

1 本体リヤパネルの SPEAKER（スピーカー） IMPEDANCE（インピーダンス） 切換スイッチを切り換える

- ▸「4Ω 以上 8Ω 未満の場合」
  インピーダンスを 4Ω に設定します。
- ▸「8Ω 以上 16Ω 以下の場合」
  インピーダンスを 8Ω に設定します。

ご注意

- 切換スイッチは、スタンバイ中に変更しても、設定が有効になりません。
  設定を変更する場合は、一度本機の電源を ON にしてください。

困ったときは

まず、下記の内容を点検してみてください。
接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法やFAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/

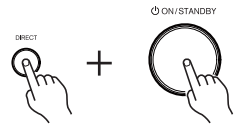
ヒント

修理を依頼される前に

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

電源を入れた状態で本体の DIRECT（ダイレクト） ボタンを押したまま、⏻ON（オン）/STANDBY（スタンバイ） ボタンを押す

リセットが完了すると、STANDBY（スタンバイ）状態になります。



電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください（➔ P.14）。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。
- 本機の電源が入らない場合は、電源コードを抜いて、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

本機の電源が切れる

- 保護回路がスピーカーコードのショート、過負荷、過電流などにより動作すると、本機はスタンバイ状態になります。原因を取り除いてから電源をオンにしてください。
- 本機背面にある切換スイッチが、正しい位置に設定されているか確認してください（➔ P.25）。
- 切換スイッチは、スタンバイ中に変更しても、設定が有効になりません。
  設定を変更する場合は、一度本機の電源を ON にして下さい。

音声

音声が出力されない

- 本機の音量が最小になっていないか確認してください（➔ P.22）。
- 適切な入力ソースが選ばれていることを確認してください（➔ P.23）。
- 「MUTING」が設定されていないか確認してください（➔ P.24）。
- スピーカーが正しく接続されているか確認してください（➔ P.12）。
- すべての接続に間違いがないか確認してください（➔ P.12）。
- ヘッドホンを接続しているときは、本機に接続されたスピーカーから音は出ません（➔ P.24）。
- PCM 以外のデジタル音声信号はサポートされていません。PCM 以外のデジタル音声信号を入力したときはノイズが生じます。

音質が悪い

- スピーカーケーブルが正しい極性で接続されていることを確認してください（➔ P.12）。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください（➔ P.14）。
- テレビなど磁気の強い場所では、音質が影響を受ける場合があります。本機をそのような機器から離してみてください。
- 通話中の携帯電話など、強度の高い電波を発する機器が近くにある場合、ノイズを出力する場合があります。

ヘッドホンの音声が途切れるまたは、出力されない

- 接続部が汚れているのが原因です。プラグのクリーニングを行ってください。クリーニングの方法については、お使いのヘッドホンの取扱説明書をご覧ください。また、ヘッドホンケーブルが壊れたり、傷ついたりしていないか確認してください。

音声性能

- 10 ～ 30 分間ウォーミングアップすると、本機の部品や内部温度が安定し、音が柔らかくなります。
- コード留めを使ってオーディオ用ピンコード、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化する恐れがあります。コードを束ねないようにしてください。
- 本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を、家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。
- 頑丈な棚やラックに設置してください。本機の重量が均等に 4 つの足に分散されるように配置してください。強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
- 電源コードを壁コンセントに接続してください。

オンキヨー製ドック

音が出ない

- 本機にオンキヨー製ドックが正しく接続されていることを確認してください。
- ビデオコンテンツが再生されていないことを確認してください。
- iPod をリセットしてください。

その他

- 設定した自動スタンバイが作動すると、**RI** 接続しているオンキヨー製ドックも自動的に電源がオフになります（➔ P.25）。

リモコンが正しく動作しない（連動しない）

- **RI** ケーブルが本機に正しく接続されているか確認してください。
  RI MODE 切換スイッチが正しく設定されているか確認してください。（➔ P.17）。

接続機器

接続された機器から音が出ない

- 入力ソースが正しく選ばれていることを確認してください（➔ P.23）。
- アナログ音声ケーブルが正しく接続されているか確認してください（➔ P.14）。

RI 連動が正しく機能しない

- 各機器が正しく接続されているか、**RI MODE** 切換スイッチが正しく設定されているかを確認してください。（➔ P.15 ～ 17）
- 本機背面にある切換スイッチが、正しい位置にあるか確認してください。
- 切換スイッチは、スタンバイ中に変更しても、設定が有効になりません。
  設定を変更する場合は、一度本機の電源を ON にして下さい。
- 接続する機器によって接続方法が異なる場合がありますので、接続する機器の取扱説明書の **RI** 接続に関するページを確認してください。

レコードプレーヤーからの音がひずむ

- お使いのレコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵している場合、**LINE IN 1**（ライン イン）端子などその他のアナログ入力端子に接続してください。
- お使いのレコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵していない場合、**PHONO**（フォノ）端子に接続してください（➔ P.19）。
- アース（接地）線を接続しているか確認してください。
  レコードプレーヤーによっては、ノイズの原因になります。

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください（➔ P.7）。
- 新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。
- リモコンと本機が離れ過ぎていないこと、リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がないことを確認してください（➔ P.7）。
- 本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置している場合、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。

製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CD レンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機の電源をスタンバイにしてから抜いてください。

音声信号入力待ちの状態にあるときに本機の上部が熱過ぎて触れることができなければ、換気を改善する必要があります。

主な仕様

定格出力 (JEITA)	(IEC) 2ch×75W (8Ω、1kHz、全高調波歪率 0.08% 以下、2ch 駆動時)
実用最大出力 (JEITA)	2 ch × 100 W (8Ω、1kHz、2ch 駆動時)
総合ひずみ率	0.08% (定格出力時)
ダンピングファクター	60 (前面、1kHz、8Ω)
入力感度 / インピーダンス	175mV/33kΩ (LINE) 4.8mV/47kΩ (PHONO MM)
RCA 定格出力電圧 / インピーダンス	0.175V/2.2kΩ (REC OUT)
PHONO 最大許容入力	100mV (MM 1kHz 0.5 %)
周波数特性	10 Hz ～ 100 kHz/+1 dB, -3 dB (LINE1)
トーンコントロール最大変化量	+14dB、-14dB、100Hz (BASS) +14dB、-14dB、10kHz (TREBLE) +0dB、-14dB (BALANCE) +8dB、80Hz (PM.BASS)
SN 比	110dB (LINE、IHF-A) 80dB (PHONO MM、IHF-A)
スピーカー適応インピーダンス	4Ω ～ 16Ω
電源・電圧	AC 100V、50/60Hz
消費電力	180W
無音時消費電力	50W
待機時電力	0.2W
最大外形寸法	435 (幅) ×139 (高さ) ×330.3 (奥行) mm
質量	8.2kg

■音声入力

デジタル	1 (OPTICAL (背面)) 2 (COAXIAL (背面))
アナログ	LINE1、LINE2、LINE3、LINE4、LINE5、PHONO

■音声出力

アナログ	LINE OUT、PRE OUT
サブウーファー	1
スピーカー	SP-A、B
ヘッドホン	1 (6.3 ø)

■その他

RI	1

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または本書記載の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 A-9050
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について
詳細は本書記載の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 年 月 日

ご購入店名：

Tel. ( )

メモ：

オンキヨー ご相談窓口・修理窓口のご案内

※販売店の長期保証制度にご加入いただいた製品の保証期間内の修理は、お買い求めの販売店へご依頼いただくようお願いします。

■「送付」による修理をご希望の場合は

下記のオーディオリペアセンターへご送付ください。

〒682-0925　鳥取県倉吉市秋喜243番地
オンキヨー　鳥取オーディオリペアセンター　修理受付窓口宛　　050-3161-9555
（詳しくは）http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。お持込みの際には営業日を確認のうえでご訪問いただくようお願いします。

（詳しくは）http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■「出張修理」をご希望の場合、その他ご不明な点は

下記のオンキヨー オーディオコールセンターへご相談ください。

オーディオコールセンター　050-3161-9555（IP電話）
（受付時間：10:00～18:00　土・日・祝日及び弊社で定める休業日を除きます）

※出張修理の際は、修理費用以外に出張費用が別途かかります。また、地域によっては、出張修理のできないエリアがございます。あらかじめご了承ください。

2012年1月現在　　住所、電話番号、受付時間などは変更になることがございます。

メモ

ONKYO

オンキヨー株式会社
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：
オンキヨーオーディオコールセンター
☎ 050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

C1504-4

SN 29401273C

(C) Copyright 2015 Onkyo Corporation Japan. All rights reserved.

29401273C